
日本図書館文化史研究会

ニューズレター

第 80 号 2002 年 5 月 16 日

日本図書館文化史研究会

〒101-8301 千代田区神田駿河台 1-1

明治大学司書・司書教諭課程

郵便振替口座 00170-5-164973

(事務局)

〒143-0026 大田区西馬込 1-31-11

小黒浩司

ファックス 03(3777)3609

電子メール

■■ 目 次 ■■

新運営体制の発足にあたって 阪田蓉子	2
『図書館文化史研究』第 19 号 (20 周年記念号) について	3
『図書館文化史研究』第 20 号原稿募集のお知らせ	
日本図書館文化史研究会 20 周年記念研究集会のご案内	4
プログラム	
宿泊の斡旋について	
2002 年度第 1 回研究例会のご案内	7
2001 年度第 3 回研究例会の報告	9
例会発表募集のお知らせ	
ニューズレター原稿募集のお知らせ	
運営委員会通信	11
次回運営委員会のお知らせ	
前回運営委員会の報告	
事務局だより	12
研究会の居所が変わりました	
会費納入のお願い	
会員動向	

新運営体制の発足にあたって

代表 阪田蓉子

新年度に入り、会員の皆様も何かとご多忙の毎日かと思えます。本研究会も新規運営体制のもとで、創立 20 周年の春を迎えることになりました。

今期運営委員につきましては、昨年 9 月の総会におはかりして、皆様のご承認をいただきましたが、その時点では監査担当委員が未定となっております。そこで山口源治郎さん（東京学芸大学）、山本順一さん（図書館情報大学）のお二人に、監査担当委員への就任をお願いし、ご受諾いただきました。

これにより新たな運営体制が整いましたので、あらためまして以下に今期運営委員をご紹介します。皆様のご助力を賜りながら、3 年間本研究会の運営にあたります。よろしくお願い申し上げます。

石井敬三（関西地区）、大沼宜規（『ニューズレター』編集）、小川徹（研究）、
奥泉和久（機関誌『図書館文化史研究』編集）、小黒浩司（事務局）、
阪田蓉子（代表）、中林隆明（研究）、山口源治郎（監査）、山本順一（監査）
（五十音順・敬称略）

新運営委員による「初仕事」は、7 ページにご案内の研究例会です。今回は久しぶりの関西地区での開催になりました。多くの方のご参加をお願いします。

さて、今期における当面最大の課題は、『図書館文化史研究』20 周年記念号の刊行、ならびに創立 20 周年記念の研究集会の実施という、20 周年記念 2 事業を予定通りに実行することです。

このうち創立 20 周年記念研究集会につきましては、本誌前号にお知らせしたとおり、本 2002 年 9 月 15・16 日の両日、アルカディア市ヶ谷（私学会館）と法政大学を会場に開催する運びとなりました。研究集会二日目の個人発表のプログラムも確定しましたので、あらためて本号 4～6 ページに記念研究集会のご案内を掲載しました。大勢の皆様のご参加を期待しております。

また、『図書館文化史研究』20 周年記念号につきましては、現在編集作業が着々と進んでおります。その内容は、本号 3 ページ掲載の目次のようになっております。9 月の記念集会までには皆様のお手元に届けられるよう、今後も作業を進めてまいります。

上記 20 周年記念事業のほかにも、本研究会活動の活性化をめざして、運営委員一同最善を尽くす所存です。会員の皆様にも、本研究会の活動へ積極的にご参加いただき、また運営に対して忌憚のないご意見をお寄せいただきたく存じます。

終りになりましたが、これまで 3 年間本研究会の運営にあたられた運営委員の方々、とりわけ事務局を担当された石井敬三さんのご労苦に、心よりお礼を申し上げます。

『図書館文化史研究』第19号（創立20周年記念号）について

本研究会創立20周年記念事業のひとつとして、『図書館文化史研究』第19号を創立20周年記念号として刊行することになりました。本年9月の発行をめざして、現在鋭意編集中です。

第19号は以下のような内容になります。ご期待ください。

■■ 目 次 ■■

序

- | | |
|-------|---|
| 石井 敦 | 発足までのこと—20年の歩みによせて— |
| 岩猿 敏生 | 日本図書館史の時代区分 |
| 藤野 幸雄 | 図書館史の方法について考えること |
| 石井 敬三 | 日本図書館文化史研究会と私 |
| 小川 徹 | 日本最古の図書館「書屋」について |
| 河井 弘志 | ヴァイマル時代の教養図書館：Gottlieb Fritzの公共図書館思想 |
| 川崎 良孝 | アラバマ州公立図書館サービス部長エミリー・リードをめぐる黒人問題（1959年） |
| 阪田 蓉子 | 司書養成と司書課程 |
| 志保田 務 | 「記述独立方式」と森耕一：非基本記入方式の成立 |
| 寺田 光孝 | 創立20周年に寄せて |
| 中林 隆明 | ボストンにおける二人のビゲロウ |
| 細井 岳登 | 地域のなかの射和文庫 |
| 山本 順一 | アメリカ公共図書館史にかかわる素描的点描 |

『図書館文化史研究』第20号原稿募集のお知らせ

機関誌『図書館文化史研究』第20号の原稿を募集します。

原稿の締切は2002年12月末日の予定です。ふるってご投稿ください。

なお、この件に関するお問い合わせ、ならびに原稿の送付先は別記事務局までお願いいたします。

日本図書館文化史研究会 20 周年記念研究集会・総会の開催のご案内

2002 年度日本図書館文化史研究会研究集会・総会を、本研究会 20 周年記念事業のひとつとして、下記のように開催することになりました。多くの方々のご参加を期待します。

記

- 日 時 2002 年 9 月 15・16 日 (日・月)
- 場 所 アルカディア市ヶ谷 (私学会館)・法政大学
JR 中央・総武線 (各駅停車) 市ヶ谷駅下車
地下鉄有楽町線・南北線・新宿線市ヶ谷駅下車
- 参加費 研 究 集 会 : 会 員 1,000 円程度
非会員 1,500 円程度
記念パーティ : 5,000 円程度
※ 参加費につきましては、次号ニューズレターであらためてご案内します。
- 申込先 別記の事務局まで、郵便、ファックス、または電子メールでお申込みください。

第 1 日 記念シンポジウム・記念パーティ (会場 : アルカディア市ヶ谷)

記念シンポジウム

- 1. 時 程 12:30～ 受付
13:00～16:30 シンポジウム
- 2. 場 所 アルカディア市ヶ谷 5 階大雪
- 3. 内 容 「図書館文化史研究の回顧と展望(仮題)」
- 4. 報告者 石井 敦、岩猿 敏生、藤野 幸雄 (五十音順)
- 5. 司 会 山口源治郎 (東京学芸大学)、山本順一 (図書館情報大学)

記念パーティ (懇親会)

- 1. 時 程 16:00～ 受付
16:30～19:00 パーティ
- 2. 場 所 アルカディア市ヶ谷 5 階赤城
- 3. 形 式 立食 (フリードリンク)

第 2 日 個人発表・総会（会場：法政大学）

※ 第 1 日目と会場が異なります。

※ 第 2 日目の会場についての詳細につきましては、ニューズレター次号でご案内します。

1. 時 程 9:30～ 受付
 10:00～15:00 個人発表
 15:00～16:00 会員総会
2. 個人発表

【発表 1】 10:00-11:00

鈴木 守（図書館情報大学大学院）

● 発表題名

アメリカ南部諸州における学校図書館サービスの発展：小規模校に対する学校図書館サービスの観点から

● 発表要旨

アメリカ南部諸州における学校図書館及び学校図書館サービスの発展について、両大戦間を中心に史的考察を行う。特に小規模校に対する学校図書館サービスの観点から、Southern Associatio of Colleges and Secondary Schools の学校図書館基準による標準化、Rosenwald 財団の援助によるカウンティライブラリーによる学校図書館サービス、Rockefeller 財団の援助による南部諸州のスクールライブラリースーパーバイザーの設置と学校図書館施策について考察を行う。

【発表 2】 11:00-12:00

深井 耀子（椛山女学園大学文化情報学部）

● 発表題名

リリアン・スミスの児童図書館論—トロント市立図書館年報・少年少女部部長報告の記述から

● 発表要旨

リリアン・スミス(1887～1983)は、児童図書館員のパイオニアである。1912年に少年少女部の部長として就任以来、40年にわたり年次報告に活動記録を執筆した。発表はその内容を照会しつつ、「児童文学論」(岩波書店、1964年)の著者として著名な彼女ならではの児童図書館論を、浮き彫りにすることをめざしている。

12:00～13:00（昼 食）

※ 昼食は、各自会場周辺でおとり下さい。

【発表3】 13:00-14:00

篠原 由美子 (図書館情報大学大学院)

- 発表題名

小牧共立普通図書館 (長野県上田市) 設立の事情とその実態

- 発表要旨

小牧共立普通図書館 (設立時は小県郡小牧村のち上田市) は、蔵書 2000 冊に満たない小規模図書館である。明治末から昭和 20 年代まで利用された。本研究は、この図書館の設立の事情や図書館活動の実態を調査したものである。戦前の図書館のうち、優れた図書館活動に関してはある程度記録や調査報告があるが、当時大半を始めていた小規模の図書館や文庫についての実態はよくわからない。一つの図書館の具体的な姿を知ることによってその一端を知る手がかりとしたい。

【発表4】 14:00-15:00

田澤 恭二

- 発表題名

図書館施設としての和室について

- 発表要旨

日本の図書館は、明治以来原則として西洋式建築であり、床は基本的には土足で歩けるような固い材質で作られている。しかし、一部の図書館では、昔から部分的に和室 (畳室) が設置されている。図書館の和室には、事務系和室と閲覧系和室がある。事務系和室には、戦前からの用務員室・宿直室などと、戦後 1960 年代以降に始まった職員休憩室・集会室などとの 2 系統がある。閲覧系和室は 1980 年代以降公共図書館で設置されるようになっていく。これらの和室の発生と変遷について、日本の住居文化と関係させて述べる予定である。

3. 会員総会

総会の議事内容につきましては、ニューズレター次号でお知らせします。

宿泊の斡旋について

ニューズレター前号に宿泊の斡旋についてご案内したところ、多数の方から申し込みをいただき、当初事務局で仮押えした分は、全室予約済みとなりました。そこで会場側と再交渉を行い、追加予約を受け付けることになりました。

宿泊先はシンポ等の会場と同じアルカディア市ヶ谷(私学会館)です。ご希望の方は、氏名(ふりがな)・連絡先を明記の上、郵便、ファックス、もしくは電子メールで、別記の事務局まで申し込んでください。料金は、シングル一人 6,306 円 (税・サ込み) + 朝食 1,050 円です。満室になり次第締め切りとなります。

2002 年度第 1 回研究例会のご案内

2002 年度第 1 回研究例会を、下記のように開催します。今回の研究例会は、久々に関西地区で行ないます。是非とも参加ください。

記

- 日 時 6 月 1 日（土）13:30～16:30
- 場 所 同志社大学今出川キャンパス徳照館 1 階会議室
 西側ドアから数メートル入った突き当たりの部屋です。
 京都市営地下鉄「今出川」、または市バス「烏丸今出川」下車
 （8 ページの地図をご参照ください）。
- 参加費 無料
- 内 容

【発表 1】

森川 彰

- 発表題名
明治海軍の文庫
- 発表内容
 1. はじめに
 1. 1 海軍の文庫と海軍文庫
 2. 文庫の概観
 2. 1 海軍省の文庫
 2. 2 諸学校の文庫
 2. 3 鎮守府の文庫
 3. 『図書館雑誌』の記事と海軍の文庫
 3. 1 「日本文庫協会沿革」他
 3. 2 「洋式図書館の嚆矢」
 3. 3 「明治初期の海軍兵学寮文庫に就て」
 3. 4 「懐古座談会」
 4. 海軍中央文庫
 4. 1 海軍中央文庫官制
 4. 2 総合目録の編・刊
 5. 近代図書館の起点
 5. 1 ペリー来航と勝海舟
 5. 2 アヘン戦争と林則徐
 6. おわりに

【発表 2】

工藤 一郎（大阪学院大学）

● 発表題名

17世紀書物をよむ人々の生活

● 発表内容

17世紀後半、農業生産力の向上、手工業の発展により国内市場が形成され、貨幣経済が発展し、揚州、蘇州、杭州、南京など大都市が成立した。このような状況のもと、インテリ（書物をよむ人々）はどのような生活を送っていたのか。そもそも「読書人」は表は官僚であり、裏は文人という、二面性をもつ中国独自の階層なのである。ここでは、読書人を含む広い意味での「書物をよむ人々の世界」を考察する。

会場案内図

2001 年度第 3 回研究例会報告

実施日：2002 年 3 月 9 日
会場：法政大学大学院棟

【発表 1】

松尾 昇治（昭島市民図書館）

- 発表題名
東京都中期計画と図書館振興政策
- 発表要旨

東京の公共図書館は 1970 年の「図書館政策の課題と対策」の実施により大きな発展を遂げた。その背景には美濃部都政の基本政策である「東京都中期計画」があった。中期計画の都市政策上の基調はシビルミニマム論であり、都市型社会における市民生活基準を自治体政策として具体化したところに画期的な意味がある。このときの図書館政策のさまざまな達成目標はシビルミニマム基準としてシンクロナイズし、中期計画に「上手に」盛り込まれた。中期計画の実施過程でガイドポストの役割を果たしたのが、都区協議会の「特別区公共施設整備計画」及び都市町村協議会「市町村公共施設等整備計画」であり、これらの計画のもとに各自治体での図書館建設が実施されていった。財政的支援については、特別区では都区財調制度により 1971 年から 1984 年（一件算定により図書館建設費が明確な時期）までに 529 億 5 千万円が算定されている。一方、市町村は 1971 年から 1976 年までの間、建設費補助 11 億 3 千万円、図書費補助 3 億 2 万円が都より補助されたにすぎない。この差が今日でも区部と市町村部の図書館規模に現れている。

【発表 2】

大沼 宜規（東洋文庫）

- 発表題名
帝国図書館と小杉文庫のことども
- 発表要旨

現在、国立国会図書館に小杉文庫として、江戸後期から明治期にかけての国学者小杉楹邨の旧蔵本が残されている（『国立国会図書館百科』『国立国会図書館蔵書印譜』等参照）。本報告では同文庫の小杉旧蔵本における性格を考えていくことを目的とした。

小杉旧蔵本は没後散逸し、現在は国立国会図書館のほか国文学研究資料館史料館、静岡県立美術館、北海学園大学北駕文庫等に比較的多く集まって所蔵されている（詳細は拙稿「小杉楹邨の蔵書形成と学問」（日本近代史研究会『近代史料研究』第 1 号二〇〇一）参照）。これらのなかには、重文指定を受けたものや名家自筆本など、貴重なものも少なくない。また、小杉楹邨自ら筆写したものが多く、特徴的である。

さて、小杉旧蔵本中、国立国会図書館小杉文庫の特徴として 1. 小杉の関心に即

して多方面の分野に亘る2. 少ないながら名家自筆本や手沢本を所蔵しており、そのなかでは屋代弘賢の関係資料が多くみられる。このことは、屋代を「尊信」していた小杉の旧蔵本という性格を反映していると考えられる3. 小杉自身の筆写本が多い。なかでも他館所蔵分が多くみられる史料の写しではなく、同時代の論文等を筆写し分野別に綴ったものが多く残されている、ということが挙げられる。すなわち、国立国会図書館小杉文庫は、書誌学的に貴重なものは多くはないが、小杉旧蔵書の特徴を比較的よくあらわしており、また小杉の思想や学問を知る上で貴重な資料が多く残されていることが特徴的であるといえる。

国立国会図書館の蔵書中には、小杉旧蔵本以外にも江戸時代から明治時代にかけての学者等の旧蔵本を、積極的に収集している様子に気がつかされる。おそらくは、当時の収書方針と、鑑識眼のある司書の存在とによるところが大きいのではないかと推測されるが、今回は指摘するにとどめ、今後の課題としておきたい。

研究例会発表募集のお知らせ

本研究会では、毎年度3回（6月頃、12月頃、3月頃）に研究例会を実施しています。研究例会での発表を希望される方は、次の各項を明記して、別記の事務局までお申し込みください。

- 氏名（所属）
- 連絡先（住所、電話、メールアドレス等）
- 発表題目
- 発表要旨（200字程度）
- 発表時間（通常質疑応答を含め1件1時間程度）
- 発表希望場所（例：関東、関西）

『ニューズレター』原稿募集のお知らせ

ニューズレターの原稿を常時受け付けています。

次号（81号）掲載を希望される場合、7月末日までに別記事務局まで原稿をご送付ください。

今後ニューズレターで、図書館文化史研究に関わる文献・情報を速報していきたいと思っております。会員・非会員の問わず、関連業績を事務局までご連絡ください。皆様のご協力をお願いします。

運営委員会通信

■■ 次回運営委員会のお知らせ ■■

次回運営委員会を、研究例会に先立って下記のように開催します。本研究会の運営に興味・関心のある方は、是非ともご参加ください。なお、当日ご都合の悪い方は、12 ページ事務局まで郵便、ファックス、または電子メールで、ご意見、ご希望等をお寄せいただければ、運営委員会で検討いたします。

記

- 日 時 6 月 1 日（土） 12:15～13:30
- 場 所 同志社大学今出川キャンパス徳照館 1 階会議室
- 内 容 1. 20 周年記念事業について
 2. 『図書館文化史研究』投稿規定・執筆要領の見直しについて
 3. 新・旧運営委員引継ぎ

ほか

■■ 前回運営委員会の報告 ■■

実施日：2002 年 3 月 9 日
場所：法政大学大学院棟

新運営体制の発足を前に、以下のような事項について協議を行いました。

1. 事務局の位置について
2. 振替口座の変更について
3. 研究例会について
4. 監査担当運営委員の選任について
5. 『ニューズレター』について
6. 研究大会について
7. 機関誌『図書館文化史研究』について
8. 今後の検討課題
9. 20 周年記念事業について
10. 新入会員
11. 次回運営委員会について

事務局だより

■■ 研究会の居所が変わりました ■■

- 対外的窓口 : 〒101-8301 千代田区神田駿河台1-1
明治大学司書・司書教諭課程

- 事務局 : 小黒 浩司

電子メール

■■ 会費納入のお願い ■■

郵便振替用紙を同封しました。今回から、振替料金を研究会負担としました。
なお、振替口座を変更しましたので、旧振替用紙は使用しないでください。

■■ 会員動向 ■■

新入会員

転居

異動

退会